

子育て支援の環境整備を問う



質問者
南雲 まさ子 議員



質 5歳児健診を導入することで発達障害が発見された場合、その後、ケアができて小学校生活に備えることができます。現在の町の健診は3歳児健診以降、就学時健診まで健診がありませんが導入に向けてのお考えは。

答 5歳児健診導入で、特別な配慮が必要な幼児に対し早期介入ができ、保護者の課題の気付きや生活への適応が向上する可能性があり、学童期の不登校発生数が減少したという研究結果もある。令和7年度より実施する方向で準備を進める。

質 5歳児健診において所見が認められた場合、必要な支援につなげるために、県設置の療育セン

ターと連携し人材の確保をしていくお考えは。

答 町単独ではむずかしいと考えるので、広域で調査研究をしていく。



5歳児健診・「こども誰でも通園制度」の導入をめざす

回答 (町長)

質 保育園に子どもを預けるためには就労等の条件が必要で、未就園の子どもへの支援や、自宅で子どもと向き合い続け疲弊したりする未就労の親に

なのはな保育園



支援が届くように、「こども誰でも通園制度」の導入が令和8年度から義務化されましたが、導入に向けてのお考えは。

答 対象となるのは、松田さくら保育園、なのはな保育園、足柄上病院内つくし園がある。実施に向けて、条例の整備や町内保育事業者への説明や協議をしていく必要がある。また、保育士不足や施設の整備などの課題をクリアする必要がある。今後課題等を確認、調整をして令和8年度実施をめざす。

朝の子どもの居場所づくりについて



質問者
北村 和士 議員



質 今年6月の定例会で、小一の壁対策のための朝の子どもの居場所づくりとして、小学校の7時開門の一般質問をし、二丁調査をするとの回答を頂きましたが、結果は。

答 10月に来年度以降、小学校に入学を予定している松田さくら保育園の52人と、町立幼稚園の保護者の方81人の計133人を対象に二丁調査を実施。92人の方から回答があり、42人の方が朝の居場所があれば利用したいとの回答を頂いた。希望する開始時間は、利用したい方42人中、7時からが1人、7時15分からが8人、7時半からが29人、7時50分からが3人、1人が未回答だった。

質 今後の対応は。

質 今後の対応は。



松田小学校全児童を対象に来年2月を目途に朝の居場所を提供する取組を進める

回答 (町長)

答 実証事業として松田小学校全児童を対象に来年2月を目途に朝の居場所を提供する取組を進める。ただし、この事業は子育て世帯への支援でもある一方、児童の発達や安全の確保が重要であることから、子どもの十分な睡眠時間を確保する必要があります。

質 放課後の子どもの居場所としては、学童保育があります。子どもに、より一層有意義な時間を過ごしてもらうために今年9月の一般質問で松田町人財バンクとの連携をお願いしましたが、お考えは。

答 教育委員会と連携を図りながら、子どもの二丁や現場の支援員のご意見を聞き、積極的に活用していきたい。



松田小学校正門前